

英語演習Ⅱ

English (Advanced Ⅱ)

科目名： 英語演習Ⅱ

クラス： 全学科 5年（選択）

単位数： 1単位（前期）

担当教官： 速水虎之助

授業目標： 「Aならば、Bである」というA→Bへの論理的な証明は理系の人たちの得意とする分野です。しかし「なぜAであるか」を思いつく力は論理ではありません。その人個人の生活体験に裏打ちされた心であり、感性です。こうした心や感性は発想の契機として今後ますます工業人に求められるでしょう。そして、これらの心や感性を養う機会として芸術があり、文学があります。この授業の目標は、言うまでもなく、英語の読む力を高めることにありますが、英文学の最高峰いわれるシェイクスピアの作品を読むことにより、人間とは何か、人間の心とは何かを探り、同時に人間性・感性を高めることにあります。

達成目標： 1. 現在までに学習した英語の基礎力を応用して、さらに高い読解力を養う。
2. 単語や慣用語句など、英語表現に役立つ語彙力を身に着ける。
3. 英語の辞書が使えることにより、自力で英語の文が読める力を培う。
4. 英文学の高いエッセンスに触れ、教養と感性を養う。

技術者教育プログラムの学習・教育目標： (D)、(E)

J A B E E基準1の(1)との関係： (a)、(f)

教科書： Shakespeare Stories (Retold by Leon Garfield) (三修社・¥1500)

参考書 特に定めない。1～4年で使用してきた教科書・参考書等

授業内容： 1. Macbeth [マクベス]
2. A Midsummer Night's Dream [真夏の夜の夢]
3. The Merchant of Venice [ベニスの商人]

授業方法： 演習・発表形式で授業を進める。使用テキストのほかに、原文の抜粋、映画（ビデオ）等を利用する。

カリキュラムの中の位置付け：

一般科目「英語」の応用・実践演習を行う科目である。

この科目を学ぶために先行して理解する必要のある科目：

英語Ⅰ、英語Ⅱ、英会話、英語演習Ⅰ

学習方法：

予習 部分にとらわれず、話の筋（ストーリー）がとらえられるようにする。そのために推測読みを行い、その後に新単語を辞書を引いて調べる。

授業 予習で分からなかったところ、主語・述語動詞との関係、英語構文が分かり、物語の筋が理解できるようにする。

英語の音声に触れ、リズム感を養う。

復習 物語の筋が楽しめるようにする。

英語の重要な構文など応用できるようにする。

作品の中から格言・箴言しんげんなど書き出してみる。

評価方法： 授業への出席・参加態度と小レポート（40%）、中間・定期試験（60%）等を総合して評価します。

学生へのメッセージ：

シェイクスピアという名前は聞いたことがあるでしょう。でも、その作品はいくつ読んだことがありますか。テキストには3編ありますが、前期だけでは読み終わることは出来ないでしょう。受講者の皆さんとともに選びましょう。

また、授業では、作品の原本と読み比べたり、映画（ビデオ）をみたりして理解を深めたいと考えています。